



日光の 伝統工芸

traditional crafts of nikko

③ 日光下駄

(にっこうげた)

日光下駄とは

江戸時代の日光は社寺(東照宮・二荒山神社・輪王寺)が中心であり、すべてにおいて格式を重んじる風調が強くありました。社寺の敷地内に入るには草履を用いるのが原則でしたが、石や雪、坂道などが多く不便なため、神社の神官や寺の僧侶などは、草履の下に台(歯の付いた木の部分)を付けた御免下駄と称する特製の下駄を使用していました。

普通の下駄は2枚の歯が付いていますが、御免下駄は前の歯が最先端に、後ろの歯が最後尾に付いているのが特徴です。この御免下駄の歯の部分などを実用的に改良し、明治中期ごろから広く一般的にも利用されるようになった



たものが日光下駄です。
現在は、社寺の方々が使用するほか、4月に行われる弥生祭用の履物として使用されることが多くなっています。また、昭和61年には栃木県伝統工芸品の指定を受けており、土産品としても高い人気があります。

日光下駄の材料

日光下駄の台には昔から、上等品の場合はホウノキ、実用品の場合はハンノキが材料として用いられていましたが、現在では軽さを求めて、上質のホングリ(本桐)が用いられています。

日光下駄のつくり・特徴

右の写真のとおり、日光下駄は、台の上にタケノコの皮で編んだ草履表

保湿・吸湿効果が注目され、健康に良いという理由からも人気が高まっています。
このように現在では、伝統工芸品としてだけではなく、健康的な製品としても広く親しまれています。

くわしくは

日光木彫りの里工芸センター

所野2848
☎(53)0070



traditional crafts of nikko

漫画を考える ちばてつや原画展

今回の展覧会では、漫画家ちばてつや氏の原画を紹介します。ちば氏は、「あしたのジョー」や「あした天気になあれ」、「のたり松太郎」などの代表作で知られています。また、文星芸術大学教授として、栃木県にも関係の深い漫画家です。

ちば氏のユーモアとペーソス(哀愁)にあふれた独自の漫画の世界を、原画の迫力によって十分に堪能するとともに、日本美術史上に漫画を正に位置づけることの重要性を感じてください。

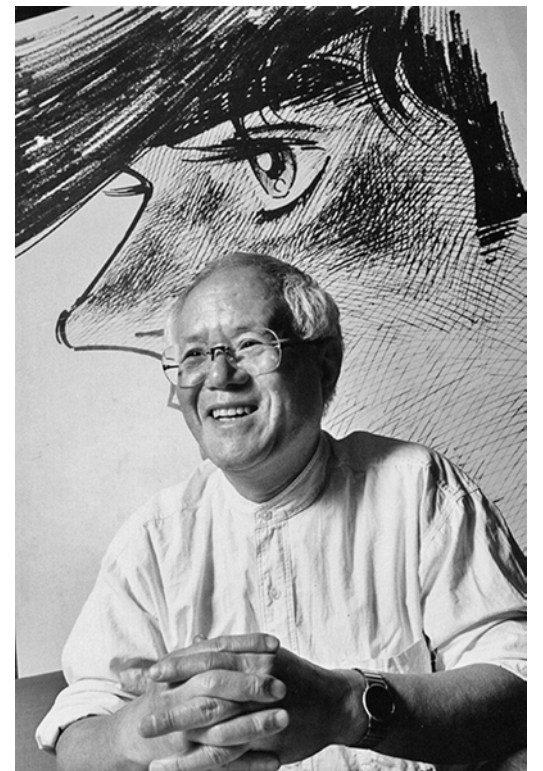
会 期: 12月20日(土)~平成21年2月1日(日)

開館時間: 午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)

休 館 日: 毎週月曜日(祝日の場合は開館し、翌日を休館)

入 館 料: 一般...700(300)円、大学・高校生...500(200)円、小・中学生...無料

※()内は市民割引券を利用した際の料金です。



KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO



小杉放菴記念日光美術館

日光市の文化財

21

日光市指定文化財 川俣愛宕山



種 別 史跡(遺跡)
指定年月日 昭和49年3月31日
【旧栗山村指定】
所 在 地 日光市川俣

史跡とは、土地にかかわる文化財の種別の一つで、城跡などその痕跡が残っている「遺跡」と、痕跡など残ってはいませんが歴史上の事件などにかわりがある場所として重要な「旧跡」の二種類があります。川俣愛宕山は、川俣小中学校から八〇メートルほど東にあり、山頂には愛宕山神社が祀られています。山自体を神聖な場所として崇める山岳信仰の対象とされてきたため、一帯には、大將塚や、大日如来・毘沙門天などの石造物、行屋跡などが残っており、「遺跡」と位置付けられます。また、毎年八月二〇日ごろの「川俣今宮様のオコモリ」(県指定文化財)や、その翌日に愛宕山神社に奉納される「川俣の獅子舞」(市指定文化財)などの伝統的な神事を行う場所でもあり、現在でも地域の人々が山を神聖な場所として思い続けていることが分かります。川俣愛宕山は、民俗学的に貴重なこれらの行事が行われる場所としても、重要な史跡です。

